

卵巣の内膜症性嚢胞に対する穿刺内容吸引が体外受精の採卵結果に与える影響についての検討

重田護^{1,2)} 大阪優²⁾、松岡麻理²⁾、太田志代²⁾、北山利江²⁾、勝佳奈子²⁾、門上大祐²⁾、中岡義晴²⁾、福田愛作¹⁾、森本義晴³⁾

- 1) 医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック
- 2) 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック
- 3) 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】体外受精において、卵巣の内膜症性嚢胞合併症例では、採卵卵子数の減少、受精卵数の減少、卵子の質の低下等の影響が報告がされている。そのため、卵巣の内膜症性嚢胞に対して、採卵前の穿刺内容吸引が、採卵結果（採卵した卵子の個数、成熟率、受精率、良好胚率）に及ぼす影響を後方視的に検討した。

【方法】当院で2015年1月から2016年12月の期間に、まず、卵巣の内膜症性嚢胞の穿刺内容吸引無しで採卵を行い、その後の周期で穿刺内容吸引と2回目の採卵を行った5名を対象として、穿刺前後の周期で、採卵結果（採卵卵子数、成熟率、受精率、良好胚率）を比較した。上記症例は、1回目と2回目の採卵で、刺激方法や受精方法に大きな変更は無く、また、1回目と2回目の採卵の間隔は1年未満の者を対象とした。

【結果】対象5名の、1回目と2回目の採卵結果は、平均年齢、35.0歳と35.4歳、採卵卵子数8.0個と9.0個($p=0.18$)、成熟率90.5%と81.7%($p=0.22$)、受精率81.3%と95.5%($p=0.16$)、良好胚率46.2%と42.9% ($p=0.85$) であり、いずれの項目でも有意差を認めなかった。5名中4名が6ヶ月以内に、1回目と2回目の採卵を行っていた。また、同時期に32名に対して内膜症性嚢胞に対して穿刺内容吸引を施行したが、感染、出血、周辺臓器の損傷、悪性腫瘍に対する穿刺などの重大な合併症は認めなかった。

【結論】卵巣の内膜症性嚢胞に対して、穿刺内容吸引を行う前後の周期で、採卵卵子数、成熟率、受精率、良好胚率のいずれの項目でも有意差を認めなかった。採卵前の穿刺内容吸引が採卵結果の改善に有効であるかに関しては、今後も症例も集積し検討して行く必要がある。